

日本帆布製品販売協同組合様向け 説明資料用レジュメ

○そもそも無人航空機（UAV）とは？

→固定翼タイプ・回転翼タイプ・大型・小型等、大きさ様々

↓

今回組合様にご購入頂いたのは、このタイプ

○回転翼タイプで思い浮かべるもの・・・

・ラジコン→ヘリコプター

・ドローン→マルチコプター（プロペラ複数枚）

DJI 社製ドローン（マルチコプター）は、自動飛行にも対応！

※購入頂いた機体のメーカー

※自動飛行とは・・・？

○ドローンの市場規模予測（世界・日本）

→ともに右肩上がりの予想

日本政府はドローン技術に関して様々な取り組みも

○とはいえ、課題がないわけではない

・非 GPS 環境下での飛行

→これがまた難しい・・・

・小型機でも頑張れる→

しかし、小さいことによる弊害も・・・

・大型機は持ち運びが・・・

→携帯化の進化！

・ドローンの活躍エリアの拡大！

・サービス市場の形成

→既存だけではなく、新しい市場での活用も

・ドローンで物を運ぼう！

・「ドローン＝おもちゃ」といった間違った認識

→日々のメンテナンスが大事！

つまり、何が言いたいかというと・・・

○ドローンでできること

→言葉だけで言われてもイマイチわからない、実際に映像を見ていこう！

①空撮（家屋調査）

→通常、人間が見ることのできない高さや角度から撮影できるのが、何よりの魅力！

②空撮（家屋調査・小学校）

→真俯瞰の映像、ドローンならではの！

③空撮（眺望・現況確認）

④空撮（琵琶湖）

⑤空撮（風景）

→テレビとかでもよく見る映像、意外と小型機で撮影してたり

⑥空撮（イベント・プロモーション）

⑦空撮（映画や TV 番組・CM・広告・より高度な空撮）

→高解像度のカメラ搭載の機体で撮影したり

法規制の順守（当然）

⑧点検（可視光カメラ・赤外線カメラ）・獣害対策

→体温検知により、遭難者の捜索にも

⑨点検（可視光カメラ・赤外線カメラ）

→通常肉眼では見れない景色を映し出すことも可能

⑩点検（可視光（高解像度・広角）・赤外線カメラ）

→現状 DJI 製品における点検用最高スペック機を使用すれば、このような撮影も・・・

⑪点検（可視光高解像度ズームカメラ）

→現状 DJI 製品における点検用最高スペック機を使用すれば、このような撮影も・・・

⑫農業生育調査（・3D レーザースキャナ）

→稲・麦中心

いろいろ見てみると、やっぱりドローンって素晴らしい！今すぐ取り入れたい！
しかし、法律がどうしても関わってきます・・・

○ドローンの法律

→航空法・小型無人機等飛行禁止法・道路交通法・・・出てくるわ出てくるわ・・・
一つずつ見ていきましょう

①航空法

→飛行が禁止されている空域

(A) 空港等の周辺の上空の空域

(B) 150m以上の高さの空域

(C) 人口集中地区の上空

つまり、飛行可能なのは、上記以外の空域

※2つの注意点

→禁止されている飛行方法

(夜間飛行)

(目視外飛行)

(30m未満の飛行)

(イベント上空飛行)

(危険物輸送)

(物件投下)

※許可を持っているからといって、危険な飛行をさせると大変なことに・・・

②小型無人機等飛行禁止法

→首相官邸・国会議事堂・外国大使館・原子力発電所等といった、

国の重要な施設の敷地及びその周囲凡そ 300m以内の範囲での飛行を禁止した法律

③電波法

→DJI 製品に関して言うならば、弊社のような国内正規代理店からご購入頂ければ、
電波法は特に気にする必要はありません。

④民法（土地所有権など）

→日本国内誰かしら土地を持っています。「国有林など（林野庁）」「河川（河川事務所）」
「港湾（各港湾局）」「海上（海上保安庁）」「組合など」も同じ。

⑤各縣市町村条令

→条例は各都道府県・市町村によって異なります。

⑥自衛隊、米軍施設

→撃ち落されても文句は言えません・・・

⑦道路交通法

→警察への届け出。

⑧軽犯罪法・個人情報保護法

→プライバシーに十分注意

⑨産廃法

→処分時注意